

平成21年度 広島市立船越小学校 学校経営計画

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てる

2 めざす学校像

- (1) 子ども一人ひとりを認め、子どもの可能性を最大限に伸ばす学校
- (2) 子ども、保護者、地域の期待に応える、開かれた学校
- (3) 教育環境を整えた学校

3 めざす子ども像

- (1) よく考える子(知)
- (2) 思いやりのある子(徳)
- (3) たくましい子(体)

4 望ましい教職員像

- (1) 子ども一人ひとりのよさを見取り、認め、可能性を伸ばす人
- (2) 子どもたちの手本となる行動をする人
(礼儀・言葉遣い・挨拶・服装・物や時間の管理など)
- (3) 子ども、保護者、地域の願いに応える教育をする人
- (4) 自らの責任を自覚し、同僚と連帯して自律的に仕事にあたる人
- (5) 基礎基本の学力を重視し、学力を伸ばす人
- (6) 自ら進んで研修し、同僚をはじめとした他者と、ともに学び合う人

確かな学力

(1) 中期経営目標

すべての学習や生活の基盤となる「言語活用能力」の育成を図り、全国学力・学習状況調査(A問題・B問題)および「基礎・基本」定着状況調査において、国語科・算数科ともに県の平均通過率を上回るようにする。

(2) 短期経営目標

説明的文章における発問の工夫などを通じて授業改善を図り、説明的文章の読みの力の育成を図る。

(3) 具体的方策

説明的文章における読みの意欲を高める授業づくりを計画的に進める。

- ・ 学級担任全員が説明的文章を対象とした授業を公開し、授業研究を進める。(ブロック別の低・中・高学年の全公開授業において大学教授を招請し、連続性のある指導を受け授業改善を図る)
- ・ 授業後の研究協議会においては、「発問」について特に着目したワークショップ形式の協議会をもち協議内容を焦点化する。(事前に検討した発問の有効性、発問に連動する学習活動のあり方について協議する。また、協議内容をふまえた説明的文章の授業を学年内で交流し、授業改善をさらに図る)
- ・ 年間3回の説明的文章の授業を見通した年間指導計画を立案し、「読みの力の向上」を意識した指導を重ねる。(教材ごとの指導内容や学習活動を明確にすることにより、「単元をつくる」という意識を指導者がもてるようにする。ひいては、単元構想力を高める)

帯タイム(チャレンジタイム)を活用し、国語科学習の基盤となる音読力・漢字力を高める活動を推進する。

帯タイム(チャレンジタイム)を活用し、算数科学習の基盤となる計算を高める活動を推進する。

新学習指導要領の趣旨をふまえ、「習得・活用・探究」のサイクルの問題解決学習を推進する。

ひろしま型カリキュラムにおける「言語・数理運用科」「英語科」を全面的に実施する。

豊かな人間性の育成

(1) 中期経営目標

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てるために「人間関係能力」を培う教育活動を推進する。

(2) 短期経営目標

「あいさつ100パーセント」の徹底を図り、自主的にあいさつできる児童を育てる。
読書活動を推進し、読書力の向上を図る。
進んで掃除に取り組む子どもを育てる。
異学年交流・幼保小中連携を推進し、豊かな学びを推進する。

(3) 具体的方策

- 生徒指導部員・児童会の計画的かつ工夫した取り組みを構想し、実施する。
- ・ 児童会の計画的な活動を通じてあいさつ運動を推進し、自主にあいさつをする意識を高め、実践力を向上させる。(あいさつ標語の募集、あいさつチェック表によりふりかえり、校門でのあいさつ運動を推進する)
 - ・ 教職員による指導により、児童のあいさつを実践する力を高めるようにする。(あいさつの意義やあいさつの様子などについても登校指導・学級指導・朝会などで話することで、児童の意識を高め、実践力を高める)
 - ・ 学区内の住民や、学区内を通り登校する生徒達によるあいさつが交わされる環境づくりに努め、ひいては児童のあいさつを実践する力を高める。(教職員によるあいさつを積極的に進める)
- 読書タイムの実施、読書ボランティアの読み聞かせ、安芸区図書館との連携等を通して、読書活動を充実させる。
- 全教職員が子どもとともに清掃活動を進め、指導を重ねる。
- 授業や児童会活動への参加を中心にして、異学年交流を推進する。
- 幼保小中間での研修会・協議会を開催することを通して、小1プロブレムや中1ギャップに対応する。
- 障害児や配慮を要する児童への支援を全教職員が理解し、協力して支援できる態勢づくりをする。
- 全教育活動での道徳教育の推進を図る。
- 「心のノート」や道徳副読本を活用して、「道徳」の時間を充実させる。
- 豊かな情操を育てる学校内掲示、教室掲示に努める。

「まちぐるみ」による教育の推進

(1) 中期経営目標

地域に開かれた学校をめざし、心の通い合う価値ある教育活動を推進する。

(2) 短期経営目標

地域の教育力を積極的に活用して価値ある教育活動を推進し、地域に開く船越小学校を構築する。

(3) 具体的方策

地域の教育力を活用した授業や行事を全学年で実施し、交流を図る。

- ・ 各教科および総合的な学習の時間で、ゲストティーチャーとして地域の方を招き、各学年とも年1回以上の「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」を推進する。(ゲストティーチャーを通じて、担任などの教職員、書籍やネットなどから学ぶことのできない学習体験を促す)
- ・ 「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」において、学習指導要領にある学習事項を学習計画(指導計画)に明記するようにすることを通じ、指導者がねらいと学習活動を結びつけ、「価値ある学び」を生み出すようにする。(学習活動と学習内容が結びついた授業づくりを推進する)
- ・ 「地域の教育力を活用した教育活動(授業)」を通して学んだことを地域に発信することを通じて、双方向の学びを構築する。(学んだことを再構成し、認識を深める学習を促す)
地域の主催するイベントへ積極的に参加するよう支援する。
学校ホームページを計画に基づいて更新する。
学校の取り組み、子どもの様子を伝える学校だより・学年だよりを充実する。
学級懇談会を活性化するために、担任と学級役員とが内容・方法等について密接な連携をもつ。

体力の向上

(1) 中期経営目標

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てるための基盤となる体力を向上する教育活動を推進する。

(2) 短期経営目標

運動に意欲的に取り組み、体力を向上させる活動に取り組む。
食育、健康教育を積極的に推進する。

(3) 具体的方策

休憩時間(とくに大休憩)での外遊びを充実させる。
体力づくりカードの活用を通して、自己のめあて達成に向けて運動に取り組ませる。
体育科副読本を活用して、体育科の授業内容の充実を図る。
給食指導や、食をテーマとした授業を通して、食生活の重要性を理解させる。